

外 国 語

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

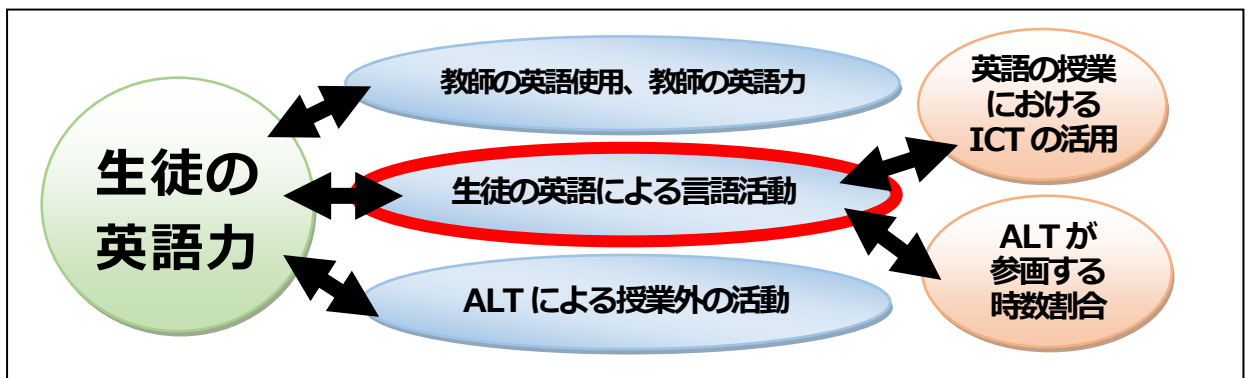
生徒が、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増してきており、異なる価値観をもつ多様な他者と、当事者意識をもって対話を行い、問題を発見・解決できる、「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性が、これまで以上に高まっている。そのような中、学校教育においては、生徒の主体的な学びを実現する学習指導と学習評価の改善・充実が一層必要となっているが、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方（諮問）」（令和6年12月25日）において、次の点などが課題として指摘されている。

- ・学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が多くなっていること
- ・自分の考えをもち、根拠に基づいて他者に明確に説明することや自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと など

外国語科において、生徒の主体的な学びを実現するためには、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標が、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」とされていることを踏まえ、生徒が言語活動に主体的・自律的に取り組むことができるよう、授業改善を図ることが重要である。

文部科学省は、令和6年度英語教育実施状況調査結果概要を公表し、「生徒の英語による言語活動」、「教師の英語使用、教師の英語力」、「ALTによる授業外の活動」等が生徒の英語力に影響を与えると指摘している。こうした指摘を踏まえると、生徒の主体的な学びを促し、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けるためには、生徒の英語による言語活動を充実させることや、教師が英語を使用する場面を増やすとともに、教師の英語力を向上させること等が重要であると考えられる。

【生徒の英語力に影響を与える諸要素】(令和6年度英語教育実施状況調査を参照して作成)



※ ←→ は、相関関係

ア 主体的な学びの実現に向けた授業改善の視点

生徒が言語活動に主体的・自律的に取り組むことができるよう、学習指導を工夫するに当たっては、次の視点を踏まえる必要がある。

【授業改善の視点】

コミュニケーション
を行う目的・場面・
状況等

×

身の回りのことから
社会や世界との
関わり

×

学習の見通しを立て
たり振り返ったり
する場面

実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げるなどして、

- 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心をもてるようする
- 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かすことを意識できるようにする
- コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を理解し、見通しをもって粘り強く取り組めるようにする
- 自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげる

イ 学習過程の改善・充実

次の①～④の学習過程を単元や授業の中の流れに位置付けることで、生徒の学習の質を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重要である。

【学習過程】

- ① 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況などを理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
言語活動
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

学習過程全体を通して

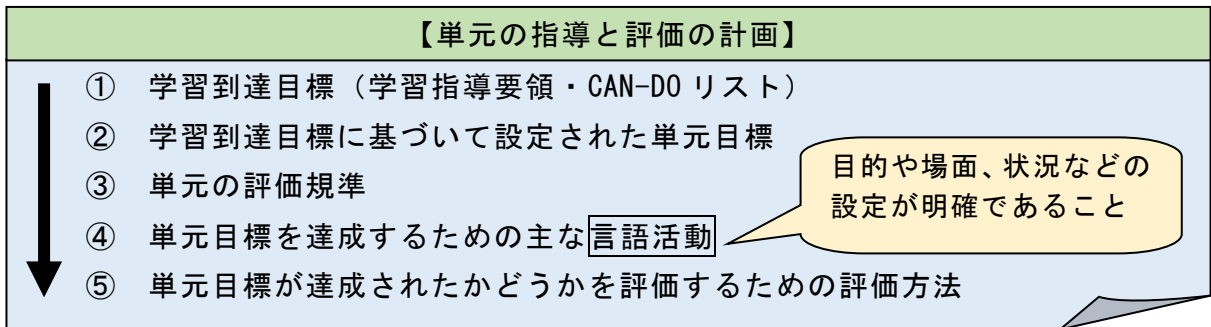
- ・「知識・技能」を実際のコミュニケーションで活用する。
- ・「思考・判断・表現」を繰り返す。

他者からのフィードバックや自己の振り返りによる気づきを踏まえ、英語表現や表現内容をブラッシュアップをしながら、言語活動を繰り返す。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

外国語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況」を評価することであり、ペーパーテスト等のみならず、パフォーマンステスト、授業中の言語活動や振り返りの様子などを、年間を通して教師が観察することにより行う。

そのため、各学校で設定した学習到達目標の達成に向けて、単元の指導と評価の計画を作成することが大切であり、各単元では、授業中に生徒が主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図る場面を適切に設定する必要がある。



各学校においては、学習指導要領に基づき、生徒の学習状況などの実態を踏まえた上で、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を設定しているところである。単元の指導と評価を行うに当たっては、学習到達目標を踏まえて単元の目標及び評価規準を設定し、授業中の言語活動やパフォーマンステスト等を実施する必要がある。

【パフォーマンステストの計画例（1学年）】

領 域	話すこと [やり取り]	
指示内容	本単元で学んだことを踏まえ、プラスチックの利点や問題点について、自分の意見をクラスメートとやり取りしてください。	言語活動やパフォーマンステストごとにCAN-DO リストを生徒に共有することで、学習到達目標を意識して授業中の言語活動等に取り組めるようにしている。
関連するCAN-DO リスト	・身近な話題や興味のある話題について、自分の意見と理由を、簡単な根拠とともに話して伝え合うことができる。 ・身近な話題や興味のある話題について、相手の意見に対して、簡単な質問をすることができる。	

○採点の基準



- ・「思考・判断・表現」についての二つの条件

条件 1 : 自分の意見と理由を、簡単な根拠とともに述べている。

条件 2 : 相手の意見に対して、簡単な質問をしている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手に分かりやすい音声、発音、イントネーションで話している。	・自分の意見と理由を、説得力のある複数の根拠を用いて話して伝えている。また、相手の意見に関する具体的な質問をしながら、やり取りを継続している。	・自分の意見と理由を、説得力のある複数の根拠を用いて話して伝えようとしている。また、相手の意見に関する具体的な質問をしながら、やり取りを継続しようとしている。
b	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使用している。 ・理解に支障のない程度の音声で話している。	・二つの条件を満たしてやり取りを <u>している</u> 。	・二つの条件を満たしてやり取りを <u>しようとしている</u> 。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「思考・判断・表現」と一体的に行っている。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、言語活動やパフォーマンステスト等において、「思考・判断・表現」と一体的に評価することができることから、結果として両観点の評価は一致することが多い。

各領域において、実際に「主体的に学習に取り組む態度」が表れている具体的な場面として、次のような例が考えられる。

【「主体的に学習に取り組む態度」が表れている場面の例】

領域	場面
「聞くこと」	<ul style="list-style-type: none"> 内容を理解するために、英文等の音声を自ら繰り返し聞いている。 相手の話すことが聞き取れなかった場合、理解するまで聞き返している。
「読むこと」	<ul style="list-style-type: none"> 語彙や表現、発音等を定着させるために、何度も音読練習をしている。 内容を詳細に理解するために、英文を繰り返し読んでいます。
「話すこと [やり取り]」	<ul style="list-style-type: none"> やり取りを継続させるために、相づちを打ったり、関心や驚きを示したり、内容を確認したりしている。 相手の状況に合わせて、語彙や表現を適切に替えながら話している。
「話すこと [発表]」	<ul style="list-style-type: none"> 発表の準備として、聞き手に伝わりやすいように、何度も発表の練習をしている。 聞き手に伝わりやすいように、話し方やジェスチャーを工夫している。
「書くこと」	<ul style="list-style-type: none"> 自ら書いたものについて、他者からのフィードバック等を踏まえながら、さらに論理的に見直し、推敲している。 読み手を意識し、相手の状況に合わせた英文を書いている。

また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、言語活動やパフォーマンステスト等において「思考・判断・表現」の評価と一体的に行う方法のほか、生徒が自己の学習を調整しようとする状況を、振り返りシートへの記述内容などを加味しながら判断する方法があり、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価することに留意する必要がある。

2 指導と評価の計画例

(1)「論理・表現 I」の計画例

ア 単元の目標

環境問題について、自分の地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、課題の解決に向けた自分の考えを論理的に話して伝えることができる。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について話して伝えるために必要な語彙や表現を理解している。 環境問題についての情報や考えを理由とともに、話して伝えることができる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について、自分の地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、課題の解決に向けた自分の考えを理由とともに、論理的に話して伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について、自分の地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、課題の解決に向けた自分の考えを理由とともに、論理的に話して伝えようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい（■）、学習活動等（○）	重点記録	備考 (評価Bの規準)
<p>1 (導入)</p> <p>【主な学習過程】 コミュニケーションの目的・場面・状況などを理解する。</p> <p>学習課題 (目的・場面・状況)</p>	<p>■身近な環境問題への興味・関心を高めるとともに、自分の考えについて話して伝え合うことができる。</p> <p>【問】What are the environmental problems to be solved in the world?</p> <p>○世界で課題となっている環境問題について、グループごとにいくつか取り上げ、クラス全体で共有する。</p> <p>○環境問題に関する語彙を確認する。</p> <p>○提案・義務を示す表現、事実について述べるための表現を確認する。</p> <p>○<u>優先して解決すべきだと自分が考える環境問題を一つ設定し、簡単な理由とともに、グループ内で話して伝え合う。</u></p> <p>【問】Which environmental problem do you think we should solve first?</p>	<p>知態</p>	<p>・環境問題に関する語彙や表現を理解し、自分の考えを簡単な理由とともに話して伝え合おうとしている。</p> <p>本単元の目標に関連するCAN-DO リストを共有し、「話すこと[発表]」の到達目標を確認させる。また、CAN-DO リストによっては、パフォーマンステストにおいてアウトプットする英語の語数を意識させることが考えられる。 (例：70語以上で話す)</p>
<p>2 (展開①)</p> <p>【主な学習過程】 情報や意見を発信するまでの方向性を決定し、<u>コミュニケーションの見通し</u>を立てる。</p>	<p>■優先して解決すべきだと自分が考える環境問題について、自分の考えを理由とともに書いてまとめることができる。</p> <p>○設定した課題に関して、具体的な情報を収集する。</p> <p>○課題解決に向けてできることについて、<u>自分の考えを話して伝えるために、メモを作成する。</u></p> <p>【問】What can we do to solve the problem?</p>	<p>思態</p>	<p>自分の考えを理由とともに書いてまとめようとしている。</p> <p>ここでは、発表原稿を作成するのではなく、話す内容を箇条書きしたメモを作成する。</p>
<p>3 (展開②) (本時)</p> <p>【主な学習過程】 目的達成のため、<u>具体的なコミュニケーション</u>を行う。</p>	<p>■クラスメートと意見交流をしたり、生成AIを活用して表現内容を見直したりすることを通じて、自分の考えを深め、より論理的に話して表現することができる。</p> <p>○<u>自分の考えをクラスメートと話して伝え合い、互いにフィードバックを行う。</u></p> <p>○<u>生成AIを活用し、論理性を確認したり、英語表現を修正したりする。</u></p> <p>【問】Which environmental problem do you think we should solve first? And what can we do to solve the problem?</p>	<p>思態</p>	<p>自分の考えを伝え合ったり、生成AIを活用したりして、自分の考えを深め、より論理的に表現しようとしている。</p> <p>生成AIは、「言語使用の適切さ」、「表現内容の適切さ」の両面においてブラッシュアップするために活用する。</p>

<p>4 (発表)</p> <p>【主な学習過程】 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。</p>	<p>■前時までに整理した内容を踏まえ、自分の地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、自分の考えを論理的に話して伝えることができる。</p> <p>○設定した課題に関連する地域の取組について、具体的な情報を収集する。</p> <p>○調べた内容を踏まえ、<u>地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、自分の考えをクラスメートと話して伝え合う。</u></p> <p>○パフォーマンステスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の発表を端末に録画し、Google Classroom 上に提出する。 <p>○学習の振り返りを行う。</p>	<p>知</p> <p>○</p> <p>思</p> <p>○</p> <p>態</p> <p>○</p>	<p>自分の地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、自分の考えを論理的に話して伝えている。</p>
--	--	---	---

「地域や学校でできる取組」という視点を新たに付け加えることで、自分の考えをより説得力あるものにすることが考えられる。

エ 学習指導案（3時間目／4時間中）

(ア) 本時の目標

クラスメートと意見交流をしたり、生成 AI を活用して表現内容を見直したりすることを通じて、自分の考えを深め、より論理的に話して表現することができる。

(イ) 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返り 本時の目標と課題の提示 <p>【学習過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況などを理解する。 情報や意見を発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。 	<p>① 環境問題についての自分の考えを確認する。</p> <p>② 本時の目標と課題を確認し、言語活動について見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の言語活動の見通しをもたせるため、クラスメートと意見交流する際の、生徒同士のフィードバックの観点を共有する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの発表 生徒同士のフィードバック <p>【学習過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。 <p>【学習過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。 	<p>③ 3～4名のグループで、優先して解決すべだと自分が考える環境問題について、自分の考えを理由とともに話して伝える。</p> <p>④ クラスメートの考えを聞き、相互にフィードバックを行う。 (※オ(ア)参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「考え→理由→具体」の順で話すよう伝える。 自分の考えを話して伝える際に必要な表現をスライドに示し、生徒が必要に応じて活用できるようにする。 必要に応じて、イラストや写真、画像等を示しながら話してもよいことを伝える。

	<ul style="list-style-type: none"> 生成 AI を活用したフィードバック <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【学習過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの再構築 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【学習過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報や意見を発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。 </div>	<p>⑤生成AIに対して自分の考えを入力し、言語面と内容面の両面からフィードバックを得る。 (※オ(イ)参照)</p> <p>⑥フィードバックによる気づきや学びをもとに、リライトする。 (※オ(ウ)参照)</p>	<p>※フィードバックの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> より説得力のある内容にするには何が必要か。 より正確な英語表現にするにはどのような修正が必要か。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート及びリライトシートの提出 次時の目標と課題の予告 	<p>⑦フィードバックをもとに改善を図った内容などを振り返りシートに記入する。 (※オ(エ)参照)</p> <p>⑧次時の目標と課題を確認し、言語活動について見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の思考の深まりや学習状況を見取り、記録に残す。 (※オ(オ)参照)

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 生徒相互によるフィードバックの例 (※生徒の学習活動④)

Lesson 9 "Save the Earth" Evaluation Sheet (by Friends)

<Feedback> Your Name: _____

His / Her Name	●●●●
The Environmental Problem	Plastic waste
Examples to show the importance (分かったことをメモ)	<ul style="list-style-type: none"> Many animals die. must use shopping bags
Do you agree with his / her idea?	1 · 2 · 3 · 4 · 5
Advice for his / her performance	You should / shouldn't / must / must not / don't have to] speak loudly.
Advice for his / her content	You [should / shouldn't / must / must not / don't have to] tell what kind of animals die.

クラスメートの発表を聞いて、メモをとる。

フィードバックの際に、提案や助言のための助動詞の活用を意識させている。

プラスチックにより影響を受けている動物について触れた方がよいと助言している。

※「生徒の学習活動④」における生徒の発話の例

I think we should work on plastic problem first.
 Many animals die because many plastic is in the sea.
 We should not use plastic bags.
 We must bring shopping bags.

(イ) 生成 AI からの活用の例 (※生徒の学習活動⑤)

① 指示文の入力

(例) 次の英文をより説得力のある内容にするにはどうしたらよ
 いか、また、より適切な英語表現にするにはどうしたらよ
 いか。
 (※英文を入力)

具体例等について、
 さらに情報を得るた
 め、生徒 AI とのやり
 とりを継続すること
 が考えられる。

② 生成 AI からのフィードバックを受けて生徒がメモした内容の一部

・日本におけるプラスチック使用の実態について書く。
 ・should not use plastic bags ⇒ use less plastic bags
 と修正する。 →違いは何だろう…

表現について不明
 な点を、英語教員や
 ALT に質問するこ
 とが考えられる。

(ウ) 生徒や生成 AI からのフィードバック等を踏まえてリライトした英文
 (※生徒の学習活動⑥)

I think we should solve plastic problems first.
 There is a lot of plastic waste in the world. Some of
 the waste is in the ocean and many animals eat it and
 die. For example, sea turtles and whales sometimes eat
 plastic bags.
 Actually, a lot of plastic bags are used in Japan
 and it is said that 30 thousand tons of them are thrown
 away. So, we should use less plastic bags. We need
 to use our own bottle. This is easy and important in
 our town.

クラスメートからのフ
 ィードバックを受け、
 プラスチックにより影
 響を受けている動物の
 具体例を付け加えてい
 る。

生成 AI とのやりとりを
 通して、客観的事実を付
 け加えることで、自分の
 考えに説得力をもたせ
 ている。

(エ) 振り返りシートの一部 (※生徒の学習活動⑦)

[3rd Period]
 ○改善を図った点

- ・プラスチック問題の影響を受けている動物を具体的に示した。
- ・ビニール袋の使用量を示すことで、日本人の生活と深く関係があることを示そうとした。
- ・actually や for example を使うことで、文と文のつながりが分かるように工夫した。
- ・自分たちにできることを具体的に書いた。

リライト後に、本時
 の振り返りとして、
 具体的な改善点につ
 いて書いている。

(オ) 生徒によるリライト及び振り返りの状況を踏まえた「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準の例

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	「b」を満たした上で、新たな視点から自分の考えを再構築し、表現している。	「b」を満たした上で、新たな視点から自分の考えを再構築し、表現しようとしている。
b	他の生徒や生成 AI からのフィードバックを活用して、自分の考えを表現している。	他の生徒や生成 AI からのフィードバックを活用して、自分の考えを表現しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「オ(ウ)(エ)」の例では、生徒相互や生成 AI からのフィードバックを活用し、英文の内容について改善を図っていることが見取れることから、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を一体的に行い、両方を「b」と評価することが考えられる。

(カ) 評価「c」が予想される生徒への手立て

○生徒が授業中に書いた英文の例

I don' t like plastic. It look cheap and I just don' t feel good about it. I think animals isn' t like it too. Using plastic is bad. Paper is better because it' s soft. That' s all.

取り組むべき環境問題について考えを述べていない。【課題の設定】

意味の理解に支障がある。【言語面】

評価「c」が予想される生徒に対しては、個々の生徒の実態に応じて、内容面と言語面の両面から、適切に「指導の個別化」を図る必要がある。上記の例では、学習課題を理解し、適切に課題を設定することや、文法等を理解して活用することについて、次のような手立てが必要であると考えられる。

○手立ての例

内容面	課題の設定	・クラスで共有した環境問題のうち、住んでいる地域や自分の生活への影響を最も感じているものは何か考えるよう伝え、選択させる。
言語面	語彙や文法・表現	・自分の意見を理由や具体例とともに話して伝えるための基本的な表現を示し、活用させる。 ・授業中の言語活動、話すために作成するメモやリライト英文から、改善すべき具体的なポイントを指導する。

その他、次のような支援が必要になることも考えられる。

内容面	理由や具体	・環境問題によって生じる身近な生活への影響など、着目する点や具体例を示すことや、自分で調べたこと、クラスメートや生成 AI とやり取りしたことから、内容を整理するのを支援する。
言語面	音声	・音声読み上げ機能など、ICT ツールを活用して、繰り返し音読練習をさせたり、クラスメートとのペアワーク等を多く取り入れたりして、発表への自信を付けさせる。

(キ) パフォーマンステスト（4時間目）

○指示内容

次の指示文を配付する。

優先して解決すべきだとあなたが考える環境問題について、自分の地域や学校でできる具体的な取組に触れながら、課題の解決に向けた自分の考えを論理的に話して伝えましょう。

○関連する CAN-DO リスト

身近な話題や社会的な問題について、具体的な内容と、自分の考えを理由とともに 70 語以上の英語で話して伝えることができる。（1 学年 話すこと [発表]）

○採点の基準

「思考・判断・表現」についての二つの条件

条件 1：環境問題について、自分の考えを理由とともに述べている。

条件 2：自分の地域や学校でできる具体的な取組を述べている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	多様な語彙や表現を適切に選択し、はっきりと分かりやすく英語を話している。	二つの条件を満たした上で、問題点の的確な分析に基づき、課題の解決に向けた方策を具体的、かつ説得力をもって話して伝えている。	二つの条件を満たした上で、問題点の的確な分析に基づき、課題の解決に向けた方策を具体的、かつ説得力をもって話して伝えようとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の英語で話している。	二つの条件を満たして話し伝えている。	二つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「思考・判断・表現」と一体的に行っている。

[生徒の発話の例] ※文字に起こしたもの（文法等の誤りを含む。）

（条件 1）I think we should work on plastic problems first.

There are a lot of plastic wastes in the world. And ..., some of them are in the ocean and many animals eat it and die. For example, sea turtles and whales often eat plastic bags. Actually, a lot of plastic bags are used in Japan and ... 30 thousand tons of them are thrown away.

（条件 2）We use and throw them away in our town, too. So, to solve the plastic problem in our town, we should use less plastic bags, use my own bottle.

I think this is easy and important in our town.

[「主体的に学習に取り組む態度」の採点の結果]

評価基準に沿って、「知識・技能」を「b」と評価するとともに、「思考・判断・表現」についての二つの条件を満たしていると判断できることから、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を一体的に行い、両方を「b」と評価することが考えられる。